

S.O.E. 沖縄エコツアーのご案内

沖縄、備瀬でのネットワークを生かしたセンスオブアースが主催するエコツアー。2回目を迎える2005年度のスケジュールが決まりました。自然とのふれあい、地元の皆さんとの交流など、NPOならではのエコツアーです。

日程 2005年**9月8日(木)～11日(日)** **3泊4日**

予定プログラム

羽地内 海カヌー

備瀬 サンゴの生態・自然観察 海辺でのんびりシュノーケリング

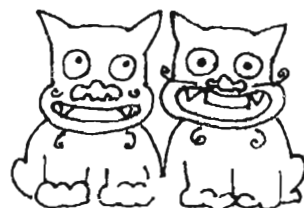
新里地区 リクヤドカリ(天然記念物)・自然観察

海辺 里道のゴミ拾い

オバーたちとの交流 沖縄料理を作って食べて

国立ちゅら水族館の見学

宿泊先 ホテル ゆがふいん備瀬
沖縄県国頭郡本部町字備瀬1147-1



お申込み受付け 2005年**6月1日(水)～30日(木)**

沖縄エコツアーのお問い合わせは NPO センスオブアース まで

お電話で…**03-3960-6052** e-mailで…**okinawa@npo-soe.jp**

予定費用：約80,000円

ご参加に際し、NPO センスオブアースの賛助会員へのご入会が条件となります。

⑥ 6月25日(土) 14時～16時 ⑥ 日本女子大川崎校舎で生田山自然観察

5月17日に行われた、生田山の自然観察は、珍種のランを6種類も見つけるなど、数十種の植物が観察でき、大成功に終わりました。今回は、その成果をもとに、植物への名札付けやマップ作りを行います。参加した学生の皆さんが観察サークルをつくる方向で、熱気の中、この企画を立てたものです。

日時：6月25日(土) 午後2時～4時

対象：植物・自然観察に関心のある方ならどなたでも

講師：高橋 英氏 (ネイチャーゲームの会)

持ち物：双眼鏡お持ちの方、メモ帳程度、ご自分の必要なもの

集合場所：日本女子大学生田校舎図書館前

交通：新宿発 小田急線急行 向丘遊園乗り換え 2つ目読売ランド前下車徒歩 15分

雨天：午前10時の時点で小雨であれば、中止となります

注意：日本女子大学学生以外の方は事前の申し込みが必要になります

お申込：6月17日までに 1ページのお申込受付先へご連絡ください。

昨年は、第1回沖縄エコツアー5泊6日の旅を開催いたしました。

それはそれは、充実した企画で、参加者みなさんが、とても満足して帰ってきました。

沖縄・備瀬を訪れた日本女子大学の学生のみなさんの感動と環境への思いをお伝えします。

〈松本理絵さん〉那覇空港から備瀬への移動中、私の頭の中で思い描いていた沖縄の「リゾート」「のんびりしている」といったイメージとは違って、何か、雄大な自然の裏にある猛々しさとか厳しさみたいな雰囲気を感じました。一見、「南国のリゾート」といったイメージだけで観光客は来るし、私もエコツアーじゃなかったらただの観光客になってしまっていたかまなあとありますが、そこにずっと暮らしてきた人々の思いが染み込んだ土地なのだと思えました。

〈新田章子さん〉備瀬の海辺でゴミ拾いをしました。小学校にいた頃に月一回ほどおこなっていたゴミ拾いを思い出した。今回のゴミにはおもしろライター、ペットボトル、缶が多いように感じた。ゴミの中には見たことのない不思議な木の実や木片が落ちていたりなどして、海は世界中とつながっているのだと思えました。非常に美しく見える備瀬の海もよく見ると他の海岸と同じように大量のゴミが打ち上げられたり捨てられたりして、パッと見にだまされて本質を見なければ、環境を改善していくことは出来ない。それに気づかせてくれた体験だった。

〈佐々木由梨子さん〉ガジュマル自然学校の永田さんと、午前は羽地(内海の場所の名前)でカヌー体験、午後は新里地区自然観察を行った。カヌー体験は、今までに見ることができない視線で海を見ることができた貴重な体験だった。とにかく楽しくて、気持ちよくてカヌーを下りたときにはもっと乗っていたかったなあ…と寂しく感じた。午後の自然観察は動植物が沖縄でどのように生育しているかなどとても興味深い話が聞けた。フクギが台風よけの役割を担っていたり、自分の子孫を残すための工夫など沖縄の風土と植物との関係がとてもおもしろかった。永田さんの言葉「環境のためにたとえ小さなことであっても何かやらないとよくなる。沖縄にいようと、どこにいようと、環境を悪くするようなことをすれば、沖縄が汚れてしまうかもしれないし、環境について良いことをすればどこかで他の生物が喜ぶかもしれない。」沖縄にいる間だけでなく、私が住む町に戻っても、どこに行っても考え行動し続けることが大切なんだということを学びました。

〈榎本茉莉恵さん〉星は本当にきれいで感動しました。カヌーで羽地内海をまわった時に、お墓についての話など民俗学みたいな話も聞いておもしろかったです。(カヌーで寄った島は風葬の習慣があったことなど)

〈佐々木〉今回は4度目の沖縄だったが、最も多く沖縄の自然に触れた旅行だった。備瀬の海の魚、珊瑚、新里の山の植物、羽地のマングローブ…。実際に自分の足で歩いて、泳いで、自分の手で触れて、においをかいで、自分の目で見て、自分の体全体で自然を感じる事ができた。理論的ではなく(実際は沖縄の環境についてもっと勉強したい

と思ったが)自分の体で実際に体験できたことで素直にこの自然を守りたいと思えた。「守らなくちゃいけない」のは間違いではないけれども「守りたい」と思えたことが、自分の中で大きな収穫であり、これから先の自分の行動のきっかけになれば良いと思う。

〈新田〉オーバー達の交流として沖縄の伝統料理を作った。最初は苦くて食べられなかったゴーヤーなどが舌にあうようになり苦菜なども美味しくたべられた。オーバー達はとても積極的で活発でおおらかな方々で、まるで、沖縄ののんびりとしていて明るい気候のようだと感じた。エイサーなどもそうだが、こういった伝統を守る人がいるからこそ、そのすばらしさを感じ大切にしたいと思うことができる。しかし、過疎化や若者の興味の薄れなどにより伝統を継ぐ者が減っていると聞いた。今回はエコツアーで来たが、環境を守って伝統が絶える事も、伝統を守り環境が悪化することもあってはならない。環境のもとに生まれた伝統、この二つは切っても切り離せないものだからである。両者のバランスを取ることは難しく、ジレンマとなっている。私は、こういう状況だからこそ、学校やそれ以外の場においても人々に大切さを伝えていくべきだと思う。

〈榎本〉今回海に興味を持ったのは、私の好きな人達や尊敬する人、おもしろいと思った人達が、多く海に魅せられ、海と出会ったことにより成長し変化したから、私も実際に海に入ってその人達の経験を自分もしてみたいと思ったからということもありました。海に入って学んだことは多くあります。また、沖縄という意味でも、自分の故郷に帰り、自分の身のまわりでできることや、身の回りにはいる環境に詳しい人に話を聞いてみたいなど“おきなわだから”環境を守るのではなく、沖縄で学んだ“地元が環境を守ることのむずかしさ”や“地元だから気づかない環境の豊かさ”を地元で発見することが、環境を守ることになるのではないかと思います。

〈松本〉今回、沖縄エコツアーに参加して、約1週間、備瀬の自然の中で生活してみて、まず単純にいろいろなことに興味を持ったり感動したりする事を忘れていたんだと痛感しました。6日間で出会った人々・海・緑・星・食べ物の一つ一つに感動し、本当にありがたいなと思いました。自然の中で、たくさんの人の思いを感じる事ができました。恥ずかしいことですが、この地に来て、5泊して初めて心と体で実感できたように思います。このツアーに参加できた事で様々な物事に対して関心を持つことができると思うし、私は環境問題を語れるほど、勉強したり経験したりしていませんが、この貴重な経験を絶対無駄にしない自信はあるつもりです。

このツアーで終わりではなく、これから私にできる事を一つ一つやっていきたいと思います。

春の野原の誘い

ビオトープ管理士会関東支部のみなさんといっしょに
板橋区立蓮根第二小学校のビオトープを見学させてもらいませんか？

4月16日(土) 午前10時から板橋区立蓮根第二小学校の学校ビオトープ「いきものひろば」にビオトープ管理士会関東支部のみなさんと、蓮根第二小学校の学校ビオトープの維持管理をされている「つくるう会」の定例活動を見学させていただきました。

当日は『親子あそび』をテーマに活動されている蓮根第二小学校の保護者組織「あそぼう会」のペットボトルロケット大会も開かれ、土曜日にもかかわらず、晴天に恵まれた校庭には子ども達の歓声が響き渡っていました。

今回おじゃましたビオトープは、この校庭の日当たりの良い一隅にありました。実は、理事長が校長時代に児童、教職員、保護者、地域の方と作り上げたものです。今回は、理事長の当時のお話を交えながらの楽しい見学会となりました。参加者のひとり日本女子大学4年生の石井まどかさんから寄せられた感想を掲載させていただきます。

4月16日。春の日差しがとても暖かく、桜の花びらもそよ風に舞っていた。そして、蓮根第二小学校のグラウンドは、さらに季節を伝えてくれる場所であった。思わず、「えっ」と声を上げてしまうほどの数のオタマジャクシが目の前に…。都会の小学校のグラウンドに存在するとは思えない光景と感動であった。

このビオトープは今年で5年目を迎えるという。しかし、当時近くの荒川からやってきたというメダカ達を、このオタマジャクシ軍団の中でこの日も発見できた。5年の歳月の中で、様々な自然界の生き物の共存する姿を四季を通して体験できる場所、それがこのビオトープであると感じた。

ビオトープは自然のあるがままの姿を作っている。だからといって「放置」するのではなく、「管理」＝人の関わりがあってこそ成り立っている。そうおっしゃたセンスオブアース理事長の言葉が印象的だった。今後もビオトープは、人と自然との関わりを実感できる、貴重な場としてより発展していくことを期待したい。

荒川を知って 荒川を楽しむ会

カワセミ・チョウゲンボウに逢いにゆこう！
第1回目の「観察会」を開催しました

2005年1月23日(日) くもり、気温6度。講師に板橋野鳥クラブの栗林菊夫先生をお招きして、参加者28名のみなさんと、板橋区内の荒川土手～浮間舟渡公園まで散策しながら荒川の野鳥を観察しました。初めての企画でどの位の方が参加して下さるか不安で一杯でしたが、たくさんの方に集まっていたいただき、ほっとしました。真冬の寒さの中ではありませんでしたが、たくさん野鳥を観察する事ができ、自然の偉大さ・色彩、輝き、配色に感動させられました。今回はカワセミ、チョウゲンボウを観察することができませんでしたが、定期的に取り組んでいきたいと思っています。

<今回の観察会で感じたこと、わかったこと> (参加者の感想を含む)

- この寒さで観察会ができるなら、1年中出来ない日はない。
- 少なくなったとはいえ、荒川にはまだまだ沢山の野鳥が生息している。
- 荒川にはまだまだゴミが沢山散乱している。野鳥たちがかわいそうだった。
- 野鳥が飛来する環境は最低限維持していかなければならない。

<この日観察できた鳥の名前>

カワウ、ゴイサギ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、カルガモ、コガモ、オナガガモ、スズガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、バン、オオバン、イソシギ、ユリカモメ、セグロカモメ、キジバト、ハクセキレイ、オナガ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、カシラダカ、ツグミ、タシギ、タヒバリ、ヒバリ、ジョウビタキ、ホオジロ、アオジ



発行 特定非営利活動法人 センスオブアース・市民による自然共生パンゲア

東京事務所 東京都板橋区前野町4-8-6 (〒174-0063)

phone: 03-3960-6052 fax: 03-3960-6053

e-mail: info@npo-soe.jp url: www.npo-soe.jp